

ヤナギダコ (地方名:アマダコ)



生態

- 年齢・成長：年齢と成長の関係は不明です。調査船調査で毎年採集される数g～数10gの小型群は、翌年1,2月には0.1～0.4kg、5,6月には0.2～0.6kg、7,8月には0.2～0.8kg、9,10月には0.3～1.0kgまで成長すると考えられます。底びき網漁業による漁獲物の組成から、3月以降成長の良い個体から順次漁獲加入し(0.2～0.5kg)、9月以降完全に加入すると推定されます。
- 成熟・産卵：交接期は3～6月、産卵期は7～8月です。外套長10cm以上(推定体重0.8kg以上)で成熟します。
- 分布・移動：水深50～500mに分布します。1～6月は100m以浅へ分布を拡大しますが、9～12月は100m以深が分布の中心となります。
- 食性：胃内容物は魚類、甲殻類、貝類、イカ・タコ類が主体です。

漁獲の動向

ヤナギダコは主に底びき網漁業により漁獲されます。震災前5年間の漁獲量は1,281～2,212トン、漁獲金額は368～633百万円でした。震災後、平成24年から操業が再開され、令和4年の漁獲量は442トン、漁獲金額は210百万円であり、震災前(平成22年)に対する割合はそれぞれ25%、57%でした。

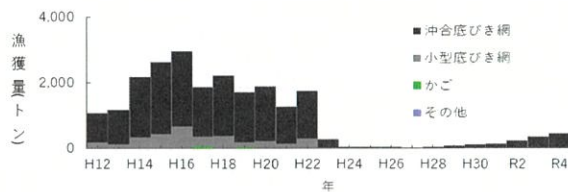


図1 ヤナギダコの年別漁業種類別漁獲量

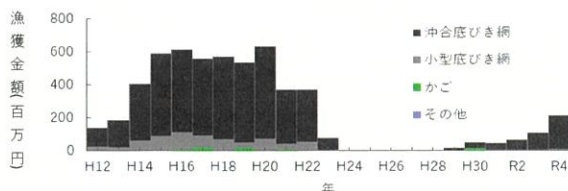


図2 ヤナギダコの年別漁業種類別漁獲金額
H24～29年は相対取引のため漁獲金額データなし

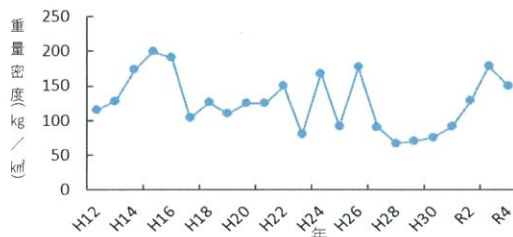


図3 調査船調査におけるヤナギダコ重量密度

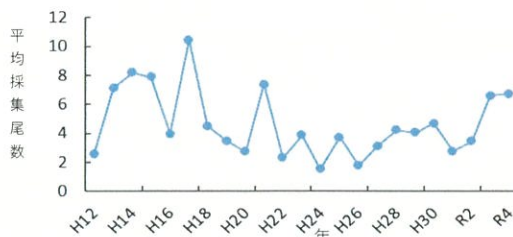


図4 調査船調査における曳網1回当たりのヤナギダコの小型個体(100g以下)の平均採集量

資源の状態

○調査船調査の結果では、重量密度は平成27年以降、比較的低い水準で推移しましたが、令和2年以降は比較的高い水準で推移しています。

○調査船調査の結果では、近年、小型個体の採集量が高い水準にありますが、漁獲量が増加していないため、資源状況が良好ではないと考えられます。

資源の水準：低位
資源の動向：増加

現在実施されている管理策
特にありません。

今後考えられる管理策

少ない資源を有効活用するため、小型個体の漁獲規制による資源の有効利用が考えられます。